

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市西多賀児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 14,036人（前年度比 78.1%） 令和元年度 17,977人 平成30年度 18,585人 平成29年度 20,168人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 指定管理者に支払った費用 26,031千円（28,951千円） その他市が負担した費用 0千円（0千円） ( )は前年度決算額
	《収入》 使用料収入 0千円（0千円） その他収入 0千円（0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報保護等について適切な管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、マニュアル等の整備、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、市民センターのホールを活用した運動遊びや工作遊びなど遊びの充実が図られており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>地域とのつながりの中で子供たちの主体性を伸ばすための活動に取り組み、コロナ禍の中でも児童館での活動を楽しみにしている子供たちや利用者のため工夫した事業の展開に努めることができました。</p> <p>乳幼児行事では、地域の読み聞かせボランティアのお話会や親子でふれあう「ママとあそぼ」「あかちゃんタイム」、子育て支援クラブの協力のもと行われた「ちびっこまつり」など人数制限はありましたが、親子の目線に立った内容を実践することで楽しく、有意義な取り組みとなりました。</p> <p>地域連携推進事業として取り組んでいる「ハロウィンパレード」では、実際に地元商店会の訪問はありませんでしたが、児童館で作成したメッセージを飾ってもらいました。各店舗からは、児童館に対する応援と継続の取り組みを期待する声が聞かれました。また、地域防災リーダーの指導のもと防災クイズにも取り組みました。密にならないため長期間の取り組みになりましたが、楽しみながら防災の意識を高められました。町内会の七夕会や敬老会では、対面での交流はできませんでしたが七夕飾りや励ましの手紙を送ることで継続した交流を続けることができました。</p> <p>併設する市民センターとの継続事業である地域カルタを使用した「大判かるた大会」は、地域を学ぶとともに日本の伝統的遊びにも触れる活動となりました。市民センターの広いホールを利用した運動遊びは、子供たちの健全育成のためにも有効な場となっています。また、地域の公園清掃作業や桜の樹名板作成に児童館として初めて参加することができ、奉仕活動の大切さを改めて感じる機会となりました。</p> <p>児童館の役割と活動を地域に理解してもらいながら、今後とも安心安全な居場所作りそして、地域とともに歩む児童館の運営を目指し努力してまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「ママとあそぼう」や「あかちゃんタイム」など年齢ごとの活動を月1回定例で開催し、親子で工作や触れ合い遊び、ベビーマッサージ、ころりんアートなど多彩なプログラムを開催している。コロナ禍で乳幼児の来館が増えたことを受けて、支援クラブと連携して「ちびっこまつり」を開催するなど、地域における情報共有や仲間作りをするための交流の場となっており、家庭で孤立している親子を支援する環境作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、児童クラブの子ども達との交流を中心に「西多賀今昔かるた大会」を感染対策をしながら開催し、遊びながら地域を学ぶ機会を継続することができた。さらに、町内会とのハロウィンパレードや七夕会、敬老会との交流は、対面ではできなかったものの手紙での交流を行い継続して取り組むなど工夫が見られた。新たに三神峯公園愛護協会との連携で行った公園の清掃や桜の木の樹名板作成では、児童が、地域の自然に触れて奉仕活動の大切さを経験するなど、地域と連携した協力体制の元事業を展開しており、子どもが地域と関りながら育つ環境作りに努めている。</p>	<p>§</p>

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課